

セツブンソウ・四阿屋山山行報告

【山城】秩父・四阿屋山

【日時と天気】2021年3月1日 晴れ

【メンバー】菊池単独

【行程】

千城台駅 5:35—都賀—東京—丸の内線—池袋—西武秩父—バス—小鹿野町役場—バス—セツブンソウ園—押留登山口—中居広場—両神神社奥社—四阿屋山山頂—中居広場—薬師の湯—帰葉



・新型コロナウイルス感染で非常事態宣言の出された北海道、ニセコ山スキー遠征を急遽キャンセルしぽっかり1週間の休暇となりました。外出を抑えるとはいえ何もしないわけにはいかず、身体をなまらせないようにハイクをしたり、ランニングをしたり、休暇を返上して勤務も数日行うこととした。最近気にしていた「セツブンソウ」山行がヤマレコに掲



載されていた。昨日小鹿野町の四阿屋山ハイクと合わせてセツブンソウ園見学に行ってきました。モノレール始発(5 ; 35)に乗り、セツブンソウ園に到着したのが 11:20、秩父の奥まったエリアで乗り換え待ち時間が多くこんなに長時間を要しました。この日はセツブンソウ祭りが開催されていた。コロナの影響で人出はやや少ないか、それでも次から次へと見学者が来園していた。旬はやや過ぎたとはいえ、一杯の小さな可憐なセツブンソウが一杯咲いています。見頃でした。



大木の脇に枯れ葉の中に咲く群落で妖精達が踊っているようです。多くのカメラマンが一眼レフを携え撮影していました。その脇から順番待ちして小生もシャッターを押します。アップで撮影すると、こんな感じで清楚な花ですね。



10~15分サクッと園内を1周し、テント出店で甘酒の無料サービスを受けました。四阿屋山ハイキングの登山口・押留までは1300mです。途中の民家には、こんな素晴らしい福寿草とセツブンソウが咲いていました。小森川の沿った道路を歩きますが、台風19号の影響でしょうか。大木が倒れていました。





登山道の初めは針葉樹林です。落葉樹の落ち葉ラッセルも楽しいです。山スキーのラッセルは一休みし、新鮮な感触を楽しめます。



間もなく山居広場に到着、蠟梅が素晴らしい！！紅梅でしょうか濃いピンクの花が混じり、豪華です。福寿草はごく少なくしか咲いていませんでした。



ろうばい園を見下ろします。かなり多くのハイカーが見学していました。



前方のお二人と談笑しながら、両神神社奥社に向かうスギ(?)林を進みます。なんとご主人はなんと私と同じゴローの同じ色の登山靴を履いており、声をかけられました。山頂までの標高差 100m 程は上級向けの鎖場が連続しますが、足場はしっかりしており、ゆっくり焦らず慎重に行動すれば問題ありません。



ツツジ新道からの合流点です。この後の山頂までの標高差 30m も鎖場があり、気は抜けません。山頂は狭いですが眺望は抜群です。先行の 3 名に写真撮影を依頼しました。お腹の出っ張りが気になります。迫力の両神山山頂稜線を望みます。1996 年 4 月(なんと 2 5



年前の46才)、百名山志向で登頂した時に、鎖場のある稜線のアップダウンを頑張った若かりし頃が思い出されました。



下山は尾根の鳥居山コースに入りましたが、所要時間が長そうなので中居方向に変更し、薬師の湯に下山しました。15:45の西武秩父行きのバスに50分ほど余裕ができたため、温泉で汗を流し、スパードライ 500ml+氷結 350mlですっかりほろ酔い加減となりバスに乗り込みました。我が家には20:15頃帰宅できました。よい運動になった満足の日でした。

